

設立の理念

1. 障害のある人が社会の中で働くことの実現

障害のある人が能力を最大限に生かし、当り前に「普通の職場」で働くことができる社会の実現を目指します。

2. 実践的なネットワークの構築

その目的を達成するため、企業、障害のある人、福祉、労働、教育、医療等の垣根を越えた「実践的ネットワーク」を作ります。

3. 就労支援の人材養成

スピリットを持ち、方法と技術を身に付けた、地域で就労支援を担う人材を養成します。

社会福祉法人横浜やまびこの里 仲町台センターにおける人材養成

8年間で約1900人が基礎講座、450人が実践セミナー、1600人が事例フォーラムを受講。

年	基礎	実践	事例フォーラム	その他
1998年		46人		
1999年	178人	40人		
2000年	258人	42人	190人	
2001年	387人	44人	371人	649人 (日米)
2002年	273人	90人	445人	
2003年	340人	60人	583人	
2004年	246人	60人	JC-NET会議へ 発展	
2005年	225人	60人	JC-NET会議へ 発展	
合計	1907人	442人	1589人	

1998年より仲町台センターでジョブコーチの人材養成を開始。左記のように発展し、JC-NET設立の基礎が作られた。

<基礎講座>

講義による1日での基礎講座

<実践セミナー>

6人1グループによる演習中心の参加型実践セミナー

<事例フォーラム>

実践発表中心でJC-NET会議の前身

JC-NETの組織

JC-NETジョブコーチセミナーに対する助成(日本点字図書館池田輝子障害者ジョブコーチ支援事業)

WEB事業、普及啓発事業を協働事業として実施(朝日新聞厚生文化事業団)

実行委員

実行委員

実行委員

実行委員

< 理事長 > 小川浩(大妻女子大学教授)
 < 副理事長 > 志賀利一(電機神奈川福祉センター常務理事)
 梅永雄二(宇都宮大学教授)
 < 理事 > 福田年之(朝日新聞厚生文化事業団)

実行委員

実行委員

実行委員

実行委員

JC-NETジョブコーチ養成研修に対する助成(麒麟福祉財団)

実行委員21人： 実行委員はNPO法人の正会員である。 地方自治体の就労支援事業、民間社会福祉法人及びNPO法人の就労支援担当者等が多い。 NPO法人の運営、各セミナーの開催、特に地方におけるJC-NETジョブコーチセミナーの開催を担う。

専門養成事業

地域就労支援の専門家、中核人材の養成

- ◆ JC-NETジョブコーチ養成研修
(職場適応援助者養成研修)

一般養成事業

地方開催の入門セミナー、基礎固めと裾野の拡大

- ◆ JC-NETジョチコーチセミナー

普及啓発事業

地方の就労支援活性化、年に一度の大会

- ◆ ジョブコーチ・ネットワークフォーラム
- ◆ ジョブコーチ・ネットワーク会議

WEB事業

常時の情報発信とネットワーク形成

- ◆ JC-NET WEB

JC-NETジョブコーチ養成研修 (職場適応援助者養成研修)

就労支援の実務に就く人を対象とする最も実践的で中身の濃いセミナー。
職場適応援助者養成研修(第1号、第2号)の指定を受けている。職場適応援助者助成金を受ける予定のない人も受講可能である。

構成	内容	単元
基礎 課程 (2日)	講義のみの座学。	・職業リハ概論と諸制度、・職場適応援助者の職務、・障害特性と職業的課題。 (15.5時間、自由1.5時間を含む)
実践 課程 (3日)	講義と演習 (6人1グループ)で体験的に学習する。	・面接での聞き取り、・職務再構成のアイデアと提案方法、・企業との面談、・ナチュラルサポートの形成、・分かりやすく教える技術、・指示書やジグの作成。(24時間、自由3時間を含む)
現場 実習 (1日)	障害者雇用企業における見学・体験実習	特例子会社を中心に、見学、作業指導の体験、講和、意見交換等。(6時間半)

第1回JC-NETジョブコーチ養成研修
平成18年8月27日(日)～9月1日(金)
三鷹産業プラザ & 職場実習第1
号:34人 第2号:8人



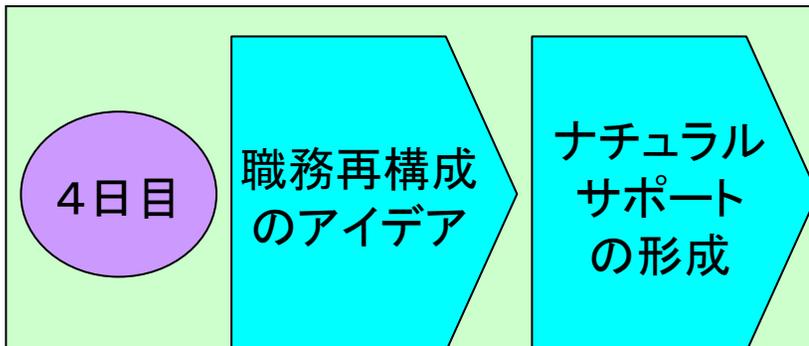
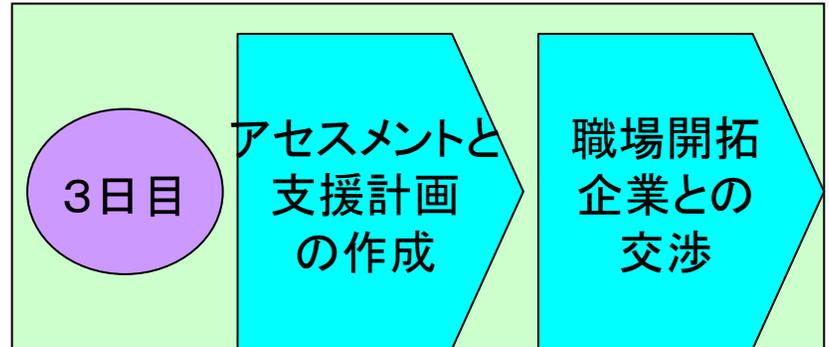
第2回JC-NETジョブコーチ養成研修
平成19年2月4日(日)～9日(金)
ウイリング横浜
第1号:48人 第2号:12人



カリキュラムの特徴

- 実践的であること。
- アセスメントからフォローアップに至る就労支援プロセスを実行管理できる「広義のジョブコーチ」の養成を目指していること。

3日目～5日目までの実践課程では、6人の小グループに分かれ、講義で知識を学習した後に、ロールプレイで模擬的実践を行う。各グループにトレーナーを配置して、アドバイスをを行う。





作業指示書やジグの作成

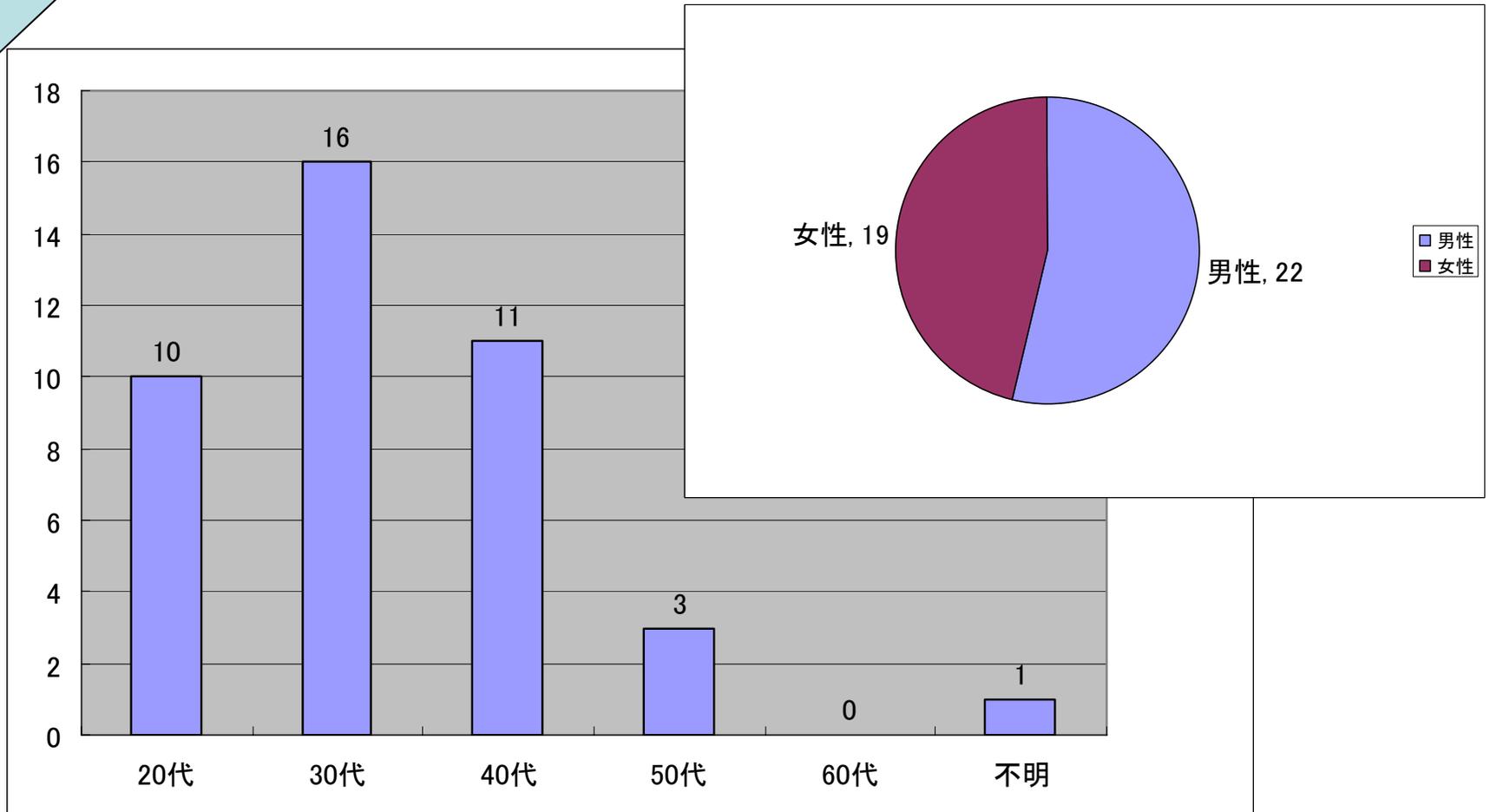




顔の見えるネットワーク

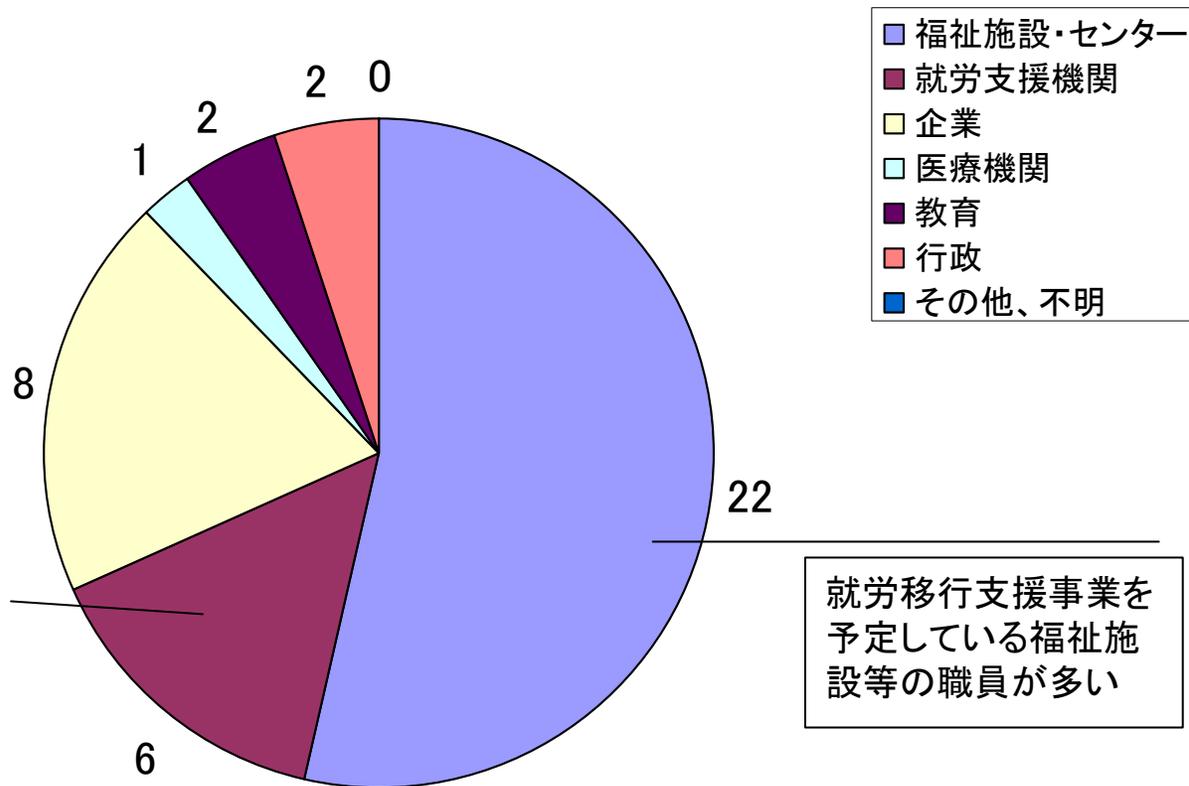


第1回目受講者の状況①



第1回目受講者の状況②

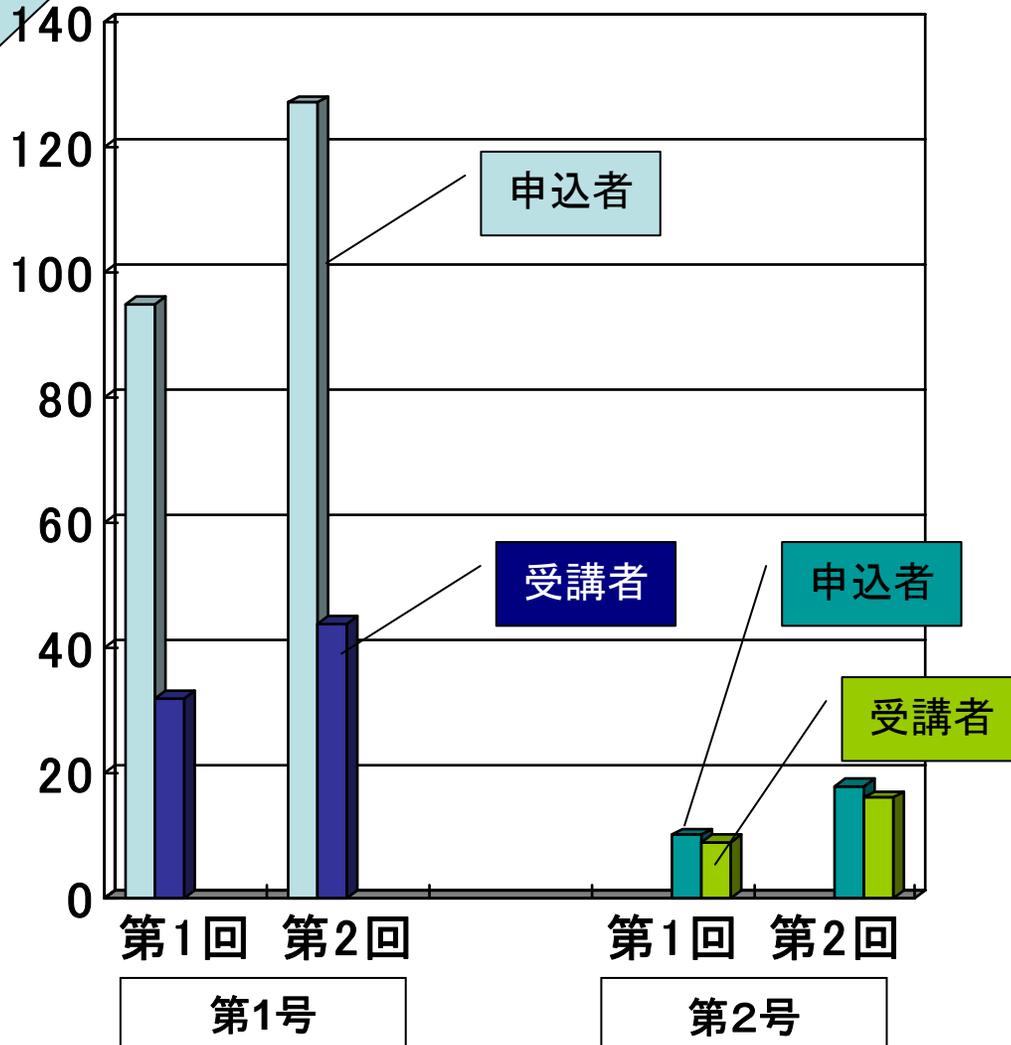
第1回目受講者の所属組織・機関の状況



地方自治体の
就労支援事業、
障害者就業・
生活支援セン
ター

就労移行支援事業を
予定している福祉施
設等の職員が多い

約3倍の倍率



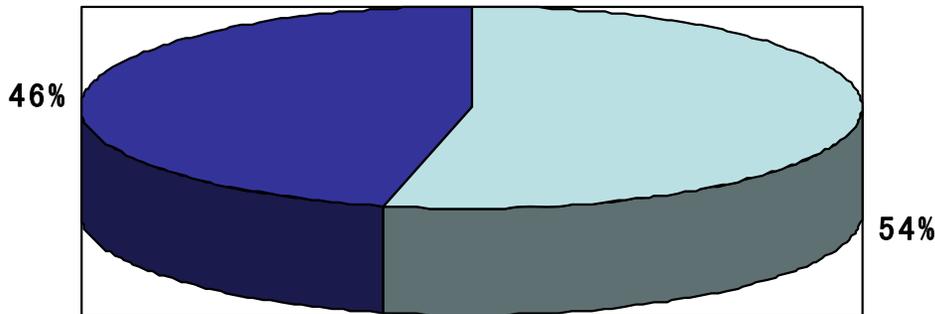
◆初年度であるが、第1号については定員の約3倍の申込を頂いている。別に表示するように、職場適応援助者の要件以外に、就労支援のスキルアップ研修として受講希望する人の割合も高い。

◆学校教育関係者の申込も1割程度ある。

◆第2号については、今後、申込者が徐々に増えていくことが予想される。

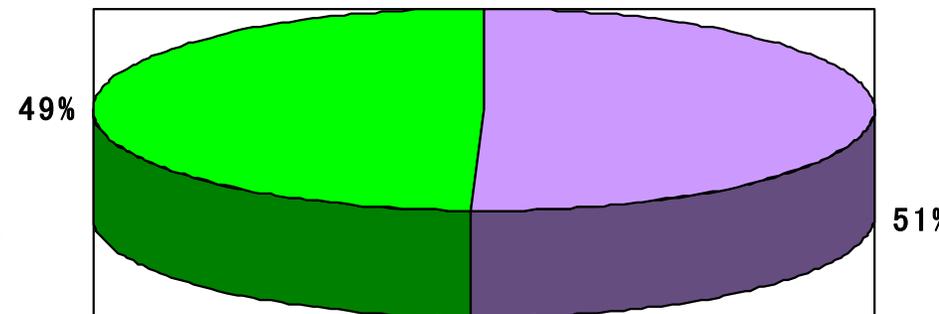
受講の目的

第1号職場適応援助者助成金の下での稼働予定について聞いたところ、申込者のうち稼働予定がある者は50%程度であり、しかも確定している者はさらに少なかった。45000円の有料でスキルアップ研修として受講を希望している人が割合が高いことが分かる。



□ 1号稼働予定有り ■ 1号稼働予定なし

<第1回目 平成18年8月>



□ 1号稼働予定有り ■ 1号稼働予定なし

<第2回目 平成19年2月>

全国合計		
年	基礎	実践
06	819	342

金 沢		
年	基礎	実践
06	65	36

長 野		
年	基礎	実践
06	80	36

北海道		
年	基礎	実践
06	174	36

福 岡		
年	基礎	実践
06	80	36

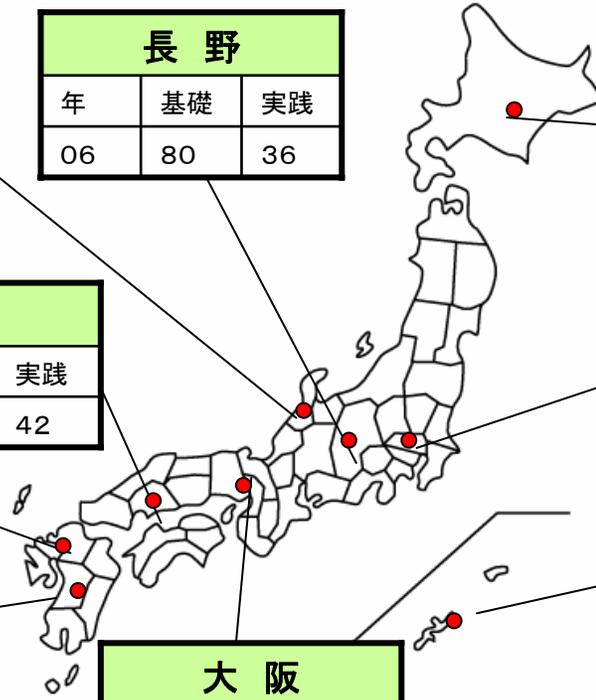
広 島		
年	基礎	実践
06	42	42

埼 玉		
年	基礎	実践
06	80	36

熊 本		
年	基礎	実践
06	80	36

大 阪		
年	基礎	実践
06	48	48

沖 縄		
年	基礎	実践
06	100	36



JC-NETジョブコーチセミナーは、職場適応援助者助成金の要件とは関係ないが、平成18年度も全国で基礎819人、実践342人が受講した。福祉、教育、企業などにおいて、就労支援に関する実践的な研修ニーズの高さは伺われる。昨年度位から、基礎講座に対するニーズがやや低下し、その分、実践セミナーへのニーズが高まっている。

地方セミナーの蓄積

全国合計		
年	基礎	実践
00~06	3675	847

金 沢		
年	基礎	実践
00	33	
01	51	12
02	50	15
03	51	19
04	34	23
06	65	36
計	274	105

長 野		
年	基礎	実践
06	80	36

北海道		
年	基礎	実践
03	200	36
04	177	36
05	247	36
06	174	36
計	798	144

福 岡		
年	基礎	実践
03	198	66
04	42	42
06	36	36
計	276	144

広 島		
年	基礎	実践
05	198	66
06	42	42
計	240	108

埼 玉		
年	基礎	実践
05	82	30
06	80	36
計	162	66

名古屋		
年	基礎	実践
05	200	36

大 阪		
年	基礎	実践
01	100	
02	※1 400	
04	※2 320	
05	77	30
06	48	48
計	945	78

沖 縄		
年	基礎	実践
01	100	18
02	100	20
03	60	16
04	100	
05	80	
06	100	36
計	540	82

熊 本		
年	基礎	実践
05	80	12
06	80	36
計	160	48

◆朝日新聞厚生文化事業団と協働事業でウェブを運営。

◆ジョブコーチに関する情報発信とネットワークの構築・維持を狙いとする。

◆ウェブ会員250人。年額6000円。

◆月に実数で5000人以上のアクセスがある。

◆週に平均して3~4回の更新を行っている。

ジョブコーチ・ネットワーク-ジョブコーチ人材養成の講師・トレーナーの様々なノウハウや実践のアイデアの公表と、全国各地のジョブコーチ-障害...

ファイル(E) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H)

戻る 検索 お気に入り

アドレス(D) https://www.jc-net.jp/ 移動 Norton AntiVirus

JC-NET
ジョブコーチ・ネットワーク

ご挨拶 | JC-NETとは | 実行委員一覧 | 記事一覧 | テキスト版 | 活動予定 | これまでの活動 | リンク集 | サイトマップ

新規会員登録

会員になると、添付ファイルダウンロードならびにコメント書き込みができます。

お知らせ情報
本サイトのお知らせ情報を掲載

JC-NET会議 ポスター発表募集要項

3月のジョブコーチ・ネットワーク会議で、ポスター発表をして下さる方を募集します。昨年も、ポスター発表の会場は、すごい盛り上がりでした。大きな成果の実践でなくても結構です。きちんと整理された発表...

- (予告)Web委員を設置します
- 【注意!】会費納入の確認
- 平成17年度会員募集開始
- 古い記事の検索方法
- ホームページのリニューアルについて

▶ お知らせ一覧

イベント情報
本サイトのイベント情報を掲載

障害者雇用企業見学会

会員No.2

- 入力・編集
- ログアウト
- 使用方法
- 新着コメント0件

ジョブコーチとは...

障害のある人が社会の中で働くことの実現を目指す就労支援の新たな理念と方法を表す言葉です。

「ジョブコーチ」と呼ばれる支援者が、障害のある人が働く職場の中で、障害のある人と企業の双方をサポートすることが特徴です。我が国では、平成14年に厚生労働省が「職場適応援助者(ジョブコーチ)事業」を制度化し、その他、地方自治体においてもジョブコーチの方法を取り入れた就労支援事業が増えてきています。

現在、ジョブコーチに公的な資格制度はありません。その方法や技術は、実践の中で形成され、修正されてきています。1つの完成形があるのではなく、先ず就労支援の実践があり、実際のニーズに応じて編み出され、体系化されていくのが「ジョブコーチ」であると考えています。

小川 浩
大妻女子大学人間関係学部人間福祉学科・助教、社会福祉法人横浜やまびこの里・仲町台センター

JC-NET会議 東京・上智大学 四ツ谷キャンパス
集合!!日本のジョブコーチたち!!! 3/11 3/12

最新ジョブコーチトピックス

ジョブコーチ・ネットワーク会議1日目終了 (志賀 利一:06/03/11)

年に一度、全国のジョブコーチが集結する、ジョブコーチ・ネットワーク会議が上智大学四ツ谷校舎で今年も開催されました。昨年同様、今年も500人近くの人が集まり、参加者の熱気が感じられる会議になっています。一日目は、基調講演が2本とワークショップ(3会場に分かれて)のプログラムです。精神障害者雇用の課題、企業からみた就労支援機関との連携、施設からの就労支援、地域のネットワーク作りなど、最新のトピックス

ページが表示されました インターネット

- 数値目標は大切であるが、それを支える「就労支援」とのバランスを大切にしたい。現状は、量の達成は極めて順調であり、就労の「質」及び「継続」のための「就労支援」が足りていない。
- 知的障害者、精神障害者の就労には、地域に就労支援機関が必要。障害者就業・生活支援センターの増強、市町村独自の就労支援の発展に期待したい。
- 生活支援と就労支援は一体であるが、専門性は異なる部分が多い。地域版・障害者職業センター、地域版・障害者職業カウンセラーの機能が障害者就業・生活支援センターに求められる。就労支援ワーカーの役割と専門性をより明確にすることが必要。

地域の就労支援担当者に 求められる専門性

ここで言う「地域の就労支援担当者」とは、
障害者就業・生活支援センター、就労移行支援事業、
地方自治体の就労支援事業、その他を含む。

仕事を教える
技術

障害のある人の
アセスメント

就労相談
支援計画の作成

福祉施設・医療・
学校との
連携

狭義のジョブコーチ
のスーパーバイズ

労働行政との連携
障害者雇用制度の
活用

フォローアップの
計画と実行

働く障害のある人の
リクルート
人材供給

企業文化の理解
企業との調整

ナチュラルサポート
の形成

職場の
アセスメント

- これからは、一定の専門性を身に付けた「地域の就労支援担当者」の養成が重要である。「狭義のジョブコーチ」は協力機関型ジョブコーチの時代をもって、既に一定の役割を終えており、第1号職場適応援助者は、地域の就労支援担当者への入門ステップとして考えたい。
- 現場の視点で考えると、就労移行支援事業、第1号職場適応援助者、障害者就業・生活支援センター、地方自治体就労支援事業の各スタッフに求められる専門性は共通している部分が多い。
- どこかのタイミングで、何らかの整理は必要と思われるが、労働、福祉、国、地方、の仕組みとの関連は複雑である。